

## 平成27年度経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援及び 大学の世界展開力強化事業合同プログラム委員会（第2回）議事概要

日 時：平成28年3月16日（水）10：00～12：00

場 所：弘済会館 4階 「梅・菊」

出席者：（委 員）明石委員、阿川委員、内田委員、漆委員、荻上委員、  
黒田委員、齊藤委員、続橋委員、長尾委員、二宮委員、  
平野委員

（文 部 科 学 省）松尾大臣官房審議官（高等教育局担当）、  
森田高等教育企画課長、田浦国際戦略分析官、  
松本高等教育企画課国際企画室長、  
鈴木高等教育企画課国際企画室長補佐

（日本学術振興会）家理事、岩佐理事、西川監事、木村審議役、  
佐々木人材育成事業部企画官（大学連携担当）

### 議題

（1）平成28年度「大学の世界展開力強化事業」新規事業の公募及び審査方法等について  
【質疑応答】

（平野委員長） この委員会による決定の後で、事務的な決議が終了次第、本事業の公募開始となりますので、申請に当たり、大学に対して期待することなども含めて、ぜひご意見があれば頂きたいと思います。

これまで、いろいろな公募を進めて、事業を展開していただいておりますが、その時の経過における問題点等も含めてお願いしたいと思いますが、いかがですか。

（二宮委員） ASEAN のカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムとの交流を考える大学におかれては、単位制度そのものが必ずしも十分でなく、昔のマレーシア、インドネシア、タイのような形では非常に難しいところがあるかと思います。質保証の観点でのいらいら感がつのるかと思いますが、ミャンマーでも、これから「単位とは」とか、「単位の互換とは」とか、そういうことを少しずつ理解していく段階だろうと思いますので、あまりがちにならないように、むしろ「交流を促進するには」という形で進めていただければと考えています。ASEAN2015 も始まっていますから、そういう点では少しずつ浸透すると思いますけれども、日本の大学もその辺を少し緩やかに構えていただいて、良いプログラムを作っていただければ、という感じはいたします。

（平野委員長） ありがとうございます。そのほかはいかがでしょう。

（黒田委員） 新しく加えられたアジア諸国のことなのですが、向こうも大学改革を大変進めており、日本の大学教育のプログラム、あるいは高専教育のプログラムをそのまま向こうの大学が導入しようとしている。ベトナムには特に日本の企業がたくさん進出している

ますので、そこで働くベトナム人を養成するという意味が非常に強いです。日本から進出している現地の企業が、その大学に対して全面的にバックアップをしているという状態が起きてきていますので、これは日本としては非常に良いチャンスだろうと思います。日本の教育プログラムを向こうへ植え込んでいくということをしながらか、交流を深める。そういうこともこの対象にしたらいいいのではないかという感じを受けているのですが、いかがでしょうか。

(阿川委員) 少し観点を変えて言うと、ASEAN の中でもベトナムは少し違いますけれども、ミャンマー、ラオス、カンボジアは国際情勢の中では非常に重視されていて、中国とアメリカと日本とインドの間でつばぜり合いがあり、中でもインドと親和性が高くなりつつあるそうです。確かに、インドは外務省の課も違うし、恐らく文科省の方々も ASEAN+3 の中で考えていらっしゃると思うのですが、大学が申請する個々の事業はその枠にはあてはまらないかもしれません。ベトナムにおいても、ベトナムから内陸を通過してインド洋に出るという道路計画もなされているところなので、必ずしも ASEAN+3 だけではなくて、大メコン圏とか、東南アジアとインドとの関係というのも、例えば土木工学とかそういうことをやっておられる大学なんかはお考えになると、非常に大事だと思っております。

(内田委員) 資料の 2-3 の 5 ページを見ますと日中韓大学間交流・連携推進会議を経て、最終的にこのプログラム委員会が採択候補を決定するということになっております。この日中韓大学間交流・連携推進会議のメンバーには、まさに中国・韓国の方々も入っているわけですね。そういう意味で言うと、そこでの審査結果を「ノー」と言われたら、それを次にわれわれが「やはりイエスなのだ」とするのは難しいのではないですか。

(鈴木室長補佐) 日中韓大学間交流・連携推進会議は、日中韓の大学、産業界の皆様など、産官学の有識者の皆様で成り立っている会議です。審査部会での審査内容をできる限り日中韓大学間交流・連携推進会議での選考に生かせるように、審査部会で順番を付けていただいたものを、日中韓大学間交流・連携推進会議の協議の場に載せたいと考えております。

(内田委員) いや、審査部会で順番を決めてこの会議に出した結果なにがしかの意見が出た場合、かえって難しくなりませんかと言っているのです。形式的に聞くのであればかえって難しいのではないか、ということです。

(松本室長) 中国・韓国も、日中韓でコンソーシアムを組んで申請してくるものですので、当然のことながら、3 カ国に同一の数が出ることになります。それに対して、それぞれの国でプライオリティを付けて順位付けしたものをみんなで見せ合い、協議をして最終的な順位を付けるという形になります。

(内田委員) いや、それは分かるけど難しいと思う。形式的なことで相手の面子も立てようという配慮なのでしょうけど、こちらの審査した結果で順位を付けて、そのとおりに相

手が納得するとは限らないのです。その後で、また最終的にこの会議で、「やはりこちらの審査の順位のとおりで」というのは角が立ちませんか、と言っているだけです。本当はそうやりたいですが、難しいでしょう。

(二宮委員) 前回のとおりになるかどうかは、また委員会がお決めになることですが、前回の経験では、日中韓3つの大学が1つのプログラムとして申請したときに、そのプログラムは日中韓それぞれの審査機関で順位が違っていたようです。それを、韓国は韓国、日本は日本、中国は中国で、30ぐらい候補を持ち寄る。もう1つのルールは、同じ大学は2回まで、例えば清華大学であれば清華大学は2回までとか、2コンソーシアム、そういったルールがあって、1から8まで決めたらそれで終わりではなくて、かなりの幅を持って、「これならいいだろう」と。あとは組み合わせの問題で、うまくいったところからルールに基づいて、委員会の平野委員長の方でお決めになると、そういったような形ではなかったかなと思います。

(平野委員長) 今回は原則1大学2つのプログラムという枠を外すのですか。

(鈴木室長補佐) 中韓の大学に関しては、今のところ枠は外れております。

(平野委員長) 前回は、今二宮委員がおっしゃったように、1大学2つのプログラムまでという原則があったものですから、少し各大学の順番を調整しなければならなかったのですが、基本的には、ここで出していただいた順位を最大限尊重するという形をとっております。私は、内田委員がご心配されているような大きな問題はなかったと思っていますが、そうでしたよね。

(二宮委員) はい。

(平野委員長) 中韓との組み合わせですから今回どうなるのかは分かりません。今お話ししたように、1大学で2プログラムという枠が外れると、これまでもそういうことが多かったのですが、日本の大学から、ある大学に集中することが起こりえますね。今、アジア地区の他のプログラムもそうでしたよね。

(内田委員) そうです。

(平野委員長) 例えば、それまでの連携が強いことから、どこかの大学に日本の大学が集中した。そういう枠が、今これはそのまま動いていますけれども、日中韓の場合には、それを2プログラム枠と制約したがゆえに、少しその順番が変わりましたけれども、そういう大きな順位変動はなかったと思っています。

(内田委員) 分かりました。

(平野委員長) 基本的には大きな問題が3国間で起こらずに選定されたと記憶しております。今回もうまくいってもらいたいと思っております。

(内田委員) もう1点なのですが、本事業を実施するに当たり、外務省の意見みたいなものはその過程において聞くことはないのですか。

(松本室長) この事業を進めていく、キャンパス・アジアという枠を拡大・継続するということに関しては、もちろん外交的な文脈がありますが、個別の、どの大学が採択されるかということに関しては、特段そういったことはないと思っています。

(内田委員) 了解しました。

(平野委員長) そのほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

<委員了承>

(平野委員長) ありがとうございます。今ここで案として紹介された公募要領、審査要項、審査基準、計画調書、審査等のスケジュールについては、原案どおり了承され、進めさせていただくことにいたします。なお、この場において大変貴重な意見を頂いておりますので、事務局においては、きちんと勘案して、公募等に当たり各申請をされる大学においてもその旨を踏まえて、良い申請を出していただければと思っております。よろしく申し上げます。

それでは、このように決定することといたしまして、文部科学省および日本学術振興会においては、本日の意見も踏まえて、速やかに審議公募を開始していただくとともに、公正公平な審査をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(2) 平成26年度「大学の世界展開力強化事業」採択事業に対する中間評価について

【質疑応答】

該当なし

<委員了承>

(3) 平成23年度「大学の世界展開力強化事業」採択事業に対する事後評価について

【質疑応答】

該当なし

<委員了承>

(平野委員長) 以上で公開の議事は終了といたします。以降、委員の選考等に関する審議については、冒頭お聞きしたように非公開で進めさせていただきます。傍聴者の皆様方、

朝早くからどうもありがとうございました。

\*\*\*傍聴者退出\*\*\*

(4) 審査部会、評価部会委員の選考について（非公開）

(5) 平成 25 年度「大学の世界展開力強化事業」採択事業に対する中間評価結果の決定について（非公開）

(6) その他（非公開）

（非公開議事のため未掲載）

\*\*\*議事終了\*\*\*